

一一一 薬王院御堂柱立吉日覺寫

御堂御柱立之吉日之事

十月八日 日よう
しつしゆく

〔天〕
太永八年 戊子 九月吉日

大永七年丁亥年六月十一日夜焼
云亡

同年ノ七月一日水曜十八日葵巳△木取始
材
巧匠
木道召置

同年十二月十二日乙卯日 斬の
てうな始

大永八年 戊子 年小屋入同年十月八日
木屋

丙子柱立是マテ苻中△豊後△大工
前嶋 守

与
苻中△江戸依御不和大輪△上より
ダイハ計り

野口治部少輔大工ニテ

亨禄二年己丑年八月九日壬申棟上

亨禄三年庚子年十月八日丁丑刁時入佛

一二一 薬王院御堂柱立吉日覺寫

御堂御柱立之吉日之事

十月八日 日ようしつしゆく

太永八年戊子九月吉日

大永七年丁亥年六月十一日夜焼亡云

同年ノ七月一日水曜十八日葵巳△木取始木道(巧匠)召置

同年十二月十二日乙卯日てうな(鉦の)始

大永八年 戊子 年小屋入同年十月八日

丙子柱立是マテ苜中△豊後△大工

苜中△江戸依御不和大輪 △上より

野口治部少輔大工ニテ

亨禄二年己丑年八月九日壬申棟上

亨禄三年庚子年十月八日丁丑子時入佛

分析

なお、原文は「茨城県史料 中世編 II」による。

原文	現代かなづかい風の表記	意味、コメント
一二一 薬王院御堂柱立吉日覺寫	薬王院御堂柱立て吉日の覚えの写し	柱立ての時に、本堂焼失以降のできごとを書き付け、その後、棟上げ、入仏などのイベントのときに書き足したもので、この書面はその写し(コピー)ということなのだろう。
御堂御柱立之吉日之事	御堂御柱立ての吉日の事	御堂御柱立てについて、という題名
十月八日 日ようしつしゅく	十月八日 日ようしつしゅく	この日(大永8年10月8日)が柱立ての日である <ul style="list-style-type: none"> ・日よう……九曜の一つの日曜だろう。 ・しつしゅく(室宿)……宿曜占星術での室宿だろう。ネット上にいろいろな記事がある。それによると、インド起源の占星術で、中国にもたらされて宿曜経が造られ、空海が日本に持ち帰った様だ。(インドのものが中国に入るとなんでも"なんとか経"という経典になってしまい、それを日本に持ち込むと、仏教経典のような扱いになってしまう)。なぜか戦国時代に宿曜占星術がもてはやされたそうで、ここの書き方はそれを反映したものか。
大永八年戊子九月吉日	大永八年戊子九月吉日	この日付は意味不明。10月8日の柱立てに先だって、当時までのいきさつを書きつけたのがこの9月某日だったのだろうか。この日は特に何のイベントもない日なので具体的な日付を書かなかったのか。
大永七年丁亥年六月十一日夜焼亡云	大永七年丁亥年六月十一日夜焼亡と云う	本堂は大永七年六月十一日夜に焼失した。 <ul style="list-style-type: none"> ・翌日の書状と思われる文章(最初の掟写)に、造営金を寄進する旨の記載がある。修理と言わずに造営と言っているので、全焼だったのだろう。ここでは焼亡と書いており、これも全焼をうかがわせる。
同年ノ七月一日水曜十八日葵巳△木取始 木道(巧匠)召置	同年の七月一日水曜十八日葵巳材木取始め 巧匠木道召し置く	7月の1日または18日に材木取始め。木取始めとは、材木の発注であろう。七月一日と十八日の二つの日付の意味がよくわからないが、いずれにしても、火災から3週間または5週間後には材木の発注である。この時点で、再

		<p>建計画の大まかな内容が固まり、明らかに必要な材木で早期に加工すべき材木から発注していくのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巧匠とは木道に対する注記とする。木道とは建築工事の棟梁か。原文では、木道の右側に巧匠とあるので、木道は固有名詞(人名)で巧匠は棟梁と言うようなニュアンスか。棟梁の木道を召して再建工事の指揮をさせた、ということになる。
同年十二月十二日乙卯日 斬のてうな始	同年十二月十二日乙卯日 ちょうな(斧)始め	<p>ちょうな始めまたは斧始めとは、材木の加工の始めであろう。細かく言うと、ちょうなを使い出すのは、届いた材木のどれをどの用途に使うかを決め、具体的な加工内容を決めてからである。また、通常はその前に、材木を乾燥させる期間が必要になる。7月に材木を発注しているので、早ければ8月には第一陣が納入されたか。3~4カ月間乾燥させて加工を開始と考えれば、無理はない様な気がする。</p>
大永八年 戊子 年小屋(木屋)入	大永八年戊子年木屋入	木屋入り……意味不明
同年十月八日丙子柱立	同年十月八日丙子柱立て	<p>柱立て……初めて柱を立てる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・柱に必要なほぞ、や切りこみを入れてから建てる。ちょうな始めから10カ月で、不思議はない。
是マテ苻中前嶋豊後守大工	是マテ苻中前嶋豊後守の大工	<p>これまでは"府中の"前嶋豊後守が大工を務めた、の意味か。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・"府中"については次項を参照されたい。 ・前嶋豊後守が"府中"というのは大掾氏の系統の大工なのだろうか。それにしても、豊後守というのは大層な名前である。理由は不明
苻中与江戸依御不和大輪計り上より	府中と江戸の御不和大輪計り上より	<p>府中(大掾氏)と江戸氏の不和により、(大輪計り：不明)、領主通泰により</p> <ul style="list-style-type: none"> ・府中とは常陸国府(現在の石岡市)で、江戸氏により水戸から追われた大掾氏の本拠地だろう。よって、府中と江戸(氏)の不和、とあるが、もともと敵対関係にある。初から不和であり理解しにくい。前嶋豊後守は大掾氏に近い人物だったのだろうか。 <p>●前嶋豊後守を任用したのは薬王院で、最初は通泰は不満ながらも認め</p>

		<p>たが、やがて江戸氏と大掾氏との軋轢が高まり、通泰は大工を交代させた、ということだろうか。</p> <p>・上より：お上(領主通泰)の沙汰により、の意か</p>
野口治部少輔大工ニテ	野口治部少輔が大工にて	野口治部少輔が大工となって
享祿二年己丑年八月九日壬申棟上	享祿二年己丑年八月九日壬申棟上げ	享祿2年(1529年)8月9日棟上げ
享祿三年庚子年十月八日丁丑子時入佛	享祿三年庚子年十月八日丁丑子(寅)時入佛	<p>享祿3年(1530年)10月8日寅時に入佛</p> <p>・本尊を安置するのが入仏式だから、そのあとに建築工事はないだろう(本尊の近くでトンカチとやるわけにはいかない(*1))から、この日で再建工事が終了だろう。逆に言うと、再建の工事が完了したのは、享祿3年(1530年)10月8日になる。</p> <p>・寅時とは、午前3~5時(定時法の場合)で、大きな行事を行うにははずいぶん早い。仏事ではめずらしくないのだろうか。</p>

(*1) 寺の建築に釘は使わないのかもしれないが、のこぎりを使う、鑿(のみ)でほぞ穴をうがつ、あるいはほぞ穴や貫(ぬき)に材木の端をはめ込むときに木槌や掛矢(かけや)でたたく、など、建築現場は決して静かではないはずである。